

受精卵と親魚を放流

あゆの渡辺延岡淡水養魚場

天然アユの増殖目指す

た受精卵約30万粒と親魚約6千匹を放流した。

同養魚場は、天然アユの増殖と自然保護の一環として同漁協の協力を得て6年前からボランティアとして放流を行っている。

放流を前に養魚場で行われた受精卵を作る作業では、後藤場長が繁殖期を迎えた雌雄を選別。腹

の太った雌アユの体を反らせて腹部を押さえ、黄色い小粒の卵を絞り出した。それに雄の精子をかけて生理食塩水を加えながら筆を使ってゆっくりと混ぜ合わせた。

雌1匹から約2万粒の卵が採取でき、精子は雌1匹に対して約4匹が必要になるという。作業では、雌15匹から約30万粒

を採卵した。

この後、同漁協が整備した1000平方メートルの産卵場に移動。同漁協の組合員と共に受精卵と親魚を放流した。

後藤場長は「アユがいて成り立つ仕事なので、少しでも翌年の天然アユが増えることを願って放流させてもらっています」と話した。



雌アユから採卵する後藤場長



親アユを放流する組合員

延岡市差木野町のあゆの渡辺延岡淡水養魚場（後藤慎治場長）は20日、北川漁業協同組合（長瀬一己組合長）が整備したアユの産卵場付近にアユの雌雄から採取して作っ